

令和2年度 江戸川区立平井南小学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	体をきたえ 心をひらいて みずから学ぶ子 なかく助け合う子 みらいへたくましく進む子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	児童、教職員、地域にとって、行きがよいある学校 自ら学び、友達と仲良く、目標をもって最後まで努力し、元気に生活しようとする児童 敬愛され、信頼される。熱意をもって、自己研鑽に励む。専門職としての自信と誇りをもつ。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 特色ある教育として縦割り活動と地域との連携を効果的に行うことができた。いじめ、不登校について研修を重ね、早期対応、解決を図ることができた。 <課題> 各教科の基礎・基本の定着率を向上させることと児童の自己肯定感を高めることを重点とする。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	教員間の情報交換…年2回 児童生徒交流…年3回	作品交流…児童鑑賞100% 中学校生徒参観…年2回	C	C	今年度は児童の中学校参観が中止となり、交流ができていなかった。作品交流もできなかった。	A	新しく開校する小松川中学校との連携方針も考え、関係を築くとよい。	小松川中学校開校前にできることを計画しておく。 作品交流…年2回
	縦割り活動の充実	児童のよさや可能性をひきたす縦割り活動(ふれあい班)の充実	集会、休み時間の縦割り活動を行う。	縦割り活動についての保護者アンケート肯定的評価80%以上	B	B	コロナ禍により、集会活動が限定されたが、雪だるま作りふれあい集会・6年生を送る会などで行うことができた。	A	休み時間に上級生が下級生の面倒をよ見ている。高学年が率先して低学年と交流しているのは南小のよさである。保護者の意見があった。	ふれあい班活動…毎月1回以上、集会、休み時間の活用
	地域を生かした活動の充実	地域の環境を生かした環境学習及び地域の人材を生かしたボランティア活動の充実	生活科及び総合的な学習で旧中川を活用する。東京音頭を学ぶ。	各学年6時間の学習及び評価 東京音頭を全児童が踊る	B	B	地域の方に、東京音頭は教わった。灯笼流しの学習・体験はできなかった。生活科及び総合的な学習で旧中川を活用した。	A	地域の環境学習はともすればよい。毎年同じ活動では変化があまりない。	各学年6時間の学習及び評価 東京音頭を全児童が踊る
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	月2回のICT授業支援活用校内オンラインICT研修…年5回	8割の児童がオンラインで学校とやり取りができる	B	B	ICTアシスタントによる支援を受け、新しいことへのチャレンジは続けている。Teamsを校内で使うことができた。児童とのやり取りは一部にとどまった。児童にパスワード等の指導が必要である。教員研修が充実した。	B	オンラインについては今年度の経験を生かして向上するとよい。	全児童がオンラインで学校とやり取りができるよう環境を整え、指導を行う。拠点校と巡回校のICT環境を整える。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	特別支援研修を年2回行う。巡回指導の理解教育を年1回行う。	5年生の巡回理解学習及び評価	B	A	専門家相談を活用して特別支援研修を行い、共通理解を深めることができた。	A	指導力、支援力の向上のため継続していく必要がある。	理解教育について学校外の組織、団体を活用する。年2回
いざいそと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	外部事業者による補習教室…年120回	ベーシックドリル診断シート平均正答率60%	B	B	外部指導者による指導と担任による補習を併用して行うことができたことがよかった。診断シートAからBの定着率が10%上がった。	A	児童が興味をもつ授業が実施されている。保護者アンケートから課題が見られた。	ベーシックドリル診断シート平均正答率60% 外部委託による補習教室の内容改善 ユニバーサルデザインによる授業改善
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	図書館スーパバイザー年4回派遣 SSSによる図書館整備 図書館教育研修…年2回	読書科ノートを全児童が活用・評価 図書貸し出し数…1人当たり年平均20冊	B	B	SSSと図書館整備を行い使いやすくなった。小松川図書館の団体貸出を全校級で行った。ゼブラから、ブックトークを行った。調べ学習コンクール全国大会に出品する児童もいたが読書科ノートの活用が不十分であった。	A	南小は読書する環境を整っており児童に読書する機会を多く与えている。	読書科ノートを全児童が活用・評価 図書貸し出し数…1人当たり年平均20冊
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	全校運動遊び…年35回 持久走週間…年1回	休み時間に外遊びする児童…80%	B	B	2つの校庭を活用して中休みは、80%以上の児童が外遊びをしている。	A	バスケットゴールを第2校庭に移動するなど外遊びを活発にする働きかけをしている。	休み時間に外遊びする児童…90%以上 遊び方の紹介をする。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	部員にチャレンジプログラム アスリート交流…年1回 オリパラ教育…年35時間	アスリートとの交流全児童体験	B	B	部のプロジェクト及びオリパラ教育予算を活用した卓球や体操のアスリートとの交流により児童の運動意欲が高まった。	A	アスリートとの交流は、児童にとってもよい。	アスリートとの交流体験やオリパラをテレビで観戦した感想の振り返りを行う。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	校内授業研究会…年4回 ALT活用…年35回	児童意識調査…肯定的評価80%	A	B	授業研究は年4回行い有意義だった。講師による指導助言も的確であった。教材の整理整頓を行い、使いやすくなった。	A	TGGを活用するとよい。	児童意識調査…肯定的評価80% ALTと休み時間交流する。
働き方改革の推進	健全育成に向けた取組の強化	いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	いじめ対策委員会及び情報交換…毎週金曜日 いじめ、不登校研修…学期に1回	不登校児童0人 いじめ早期発見・対応…随時	A	A	不登校児童0人達成。いじめ対策委員会中心にいじめの早期発見、対応には常に気を配っている。毎週金曜の情報交換は有効であった。毎学期いじめ対策研修を行った。	B	保護者アンケートでいじめについて意見があった。担任に報告しやすい環境が早期発見につながる。	不登校児童0人 いじめ早期発見・対応…随時
	校務スリム化の意識改革	配置人材の活用による校務遂行時間の短縮	スクールサポートスタッフ…週5日配置 学校再開支援員…週2日	校務遂行時間…週1時間短縮	B	B	SSSの配置による印刷業務、会計処理などにより、校務遂行時間が短縮された。	A	学校環境向上のため継続するとよい。	校務遂行時間…週1時間短縮
相談体制情報モラル教育の充実	ライフワークバランスの推進	休暇の取得推進と在職時間の縮減	年休取得を推進する 在職時間を縮減する	年休取得…10日 定時外在職時間…月45時間以内	B	B	土曜授業等により、週休日の変更が多く、年休の取得が難しかった。自動応答電話は有効であった。打刻ちゃんにより在職時間が意識された。	A	学校環境向上のため継続するとよい。	年休取得…10日 定時外在職時間…月45時間以内 月1回以上定時退勤日設定
	一人一人に応じた教育相談	特別支援教育コーディネータを中心とした教育相談及びスクールカウンセラー、都巡回心理士の活用	スクールカウンセラー…年38回 都巡回心理士…年10回	5年生全員面接 情報交換…毎週金曜日	A	C	SC及び都巡回心理士へ気軽に相談することができ、すぐに授業を参観し、アドバイスをもらうことができた。	A	少人数の特徴を生かしてスクールカウンセラーを密に活用するとよい。	5年生全員面接 情報交換…毎週金曜日 SCと都巡回心理士の勤務日を含む…月1回
	情報モラル教育の充実	「SNS東京ルール」の推進による児童・生徒の生活習慣や情報モラル意識の向上	SNS学校ルールの周知及び家庭ルールの徹底 情報モラル教室…年1回	スマボ、ゲーム使用時間…1割短縮	B	B	オンラインゲーム、ライン、動画視聴の時間が非常に長くなっている。学校としてのルール作りと家庭の連携が必要である。	A	家庭ルールを決め、保護者と共に児童に意識させていくとよい。	SNSやオンラインゲームの使用時間や注意点の周知 情報モラル指導…年3回